

# 農業経営と牧草

渡部 以智四郎

最近の北海道の農家経済調査（農林省の統計調査事務所調査）を見ると農業収入はそれ程上昇していないのに経営費は著しく増加している。従つてその差引した農業所得は上つていないという結果を報じている。最近といつても昭和二十六年から三十一年までの六九年間を拾つて見た結果である。勿論このうちには二十九年、三十一年という凶作があつたので収入が落ちているという原因はあるとしても農家にとつては好ましいことではない。

この六九年の大体の収入の増加は三割といふこともあつたが一割前後である。ところが支出（経営費）の方は六年間に二倍となつていて、この理由を見るると畑作生産物の収量はそれ程減收していないとすると価格が上昇しているということになる。これには面白い例がある。それは府県の農家経済調査のことである。即ち昭和二十六年からでは農業収入は大体四割増加している。丁度これは府県の主体が米作であることから米価の上昇と同一の歩調をとっているからである。しかも経営費の方では府県でも北海道と同様に大体二倍となつている。これは経営費の主な部分を持つ肥料、飼料などがその施用量が著しく増加し

ていることが原因となっているからである。全国的に見ると二十六年を基準にする最も多く使用されたものは農薬の三倍、飼料の二倍、肥料、農機具は六割乃至五割増となつていて。（第三表及び第五表）この価格の差を見ると肥料価格と農薬とはやや下降しているが飼料及び農機具は二割から三割の上昇を示している。

以上のことを要約すると畑作物の価格は安いということと、その生産資材が比較的高いということになるであろう。特に多肥農業になつて量において多く使用されて来ているとするならば現在の支出状況が果して合理的即ち経済的であるかどうかについて反省して見る必要があると思う。それでも反省して見る必要があると思う。それには肥料と飼料とが最も好適な例といえよう。

肥料については自給肥料ということにしては目されねばならぬ。これについては従来からいわれている綠肥と堆肥の問題である。戦争段階で極度にまで略奪された地力の回復には購入による化学肥料だけでは不可能に近いといふよう。どうしても有機質肥料を必要とするならば、この堆肥によより外に手段はない。しかも最近苦土の如き微量元素の欠乏がいわれているときは堆肥は好適な肥料といわねばならぬ。しかも経済的に即ち効率に対する経費ということになれば堆肥は安価で、しかも肥効のことには堆肥はないのである。

次は問題の飼料である。これはややその趣を異にしているが類似の点もある。即ち購入飼料は大体において濃厚飼料と称せられるもので、例えば乳牛飼育にはある程度必要なものであろう。しかしこの飼料を買ひ、泥炭地の適作は牧草が最上であることを認められたのに拘らず、それが重要視されず乳牛はホルスタイン、飼料はデントコーンと一方的に指導奨励の対象となつたことに原因があることであろう。これには種々の理由が存在するであろうが、牧草がやかましく論議されるようになつたのは戦後に於けるものである。

このことであり、ここ四、五年のことのようである。しかも最近家畜を入れておる農家はこの牧草栽培には非常な関心を持つている。乳牛を上手に入れておる農家、あるいは四、五頭以上の乳牛を飼育している農家は殆んど全部といつてよい程牧草を取り入れて來ている。

第1表 農村物価指数 (26年100)

	農産物	生物	農用	業品	家用	計品
26年平均	100.0	100.0	100.0			
27年平均	104.2	107.8	102.3			
28年平均	122.9	108.6	105.3			
29年平均	119.8	111.2	108.2			
30年平均	117.7	106.5	108.3			
31年平均	114.5	107.0	109.7			
32年3月	121.7	110.0	111.7			
32年6月	121.6	112.0	111.7			
32年9月	123.7	111.7	112.0			
33年3月	120.7	110.7	111.4			
33年6月	119.6	109.9	110.3			
33年9月	119.5	106.9	110.2			

注 農林省統計調査部 昭和33年度最新の景気変貌と農産物市場

第2表 農林生産物類別指数 (26年100)

	米	麦	畜産物	いも
26年平均	100.0	100.0	100.0	100.0
27年平均	112.5	108.3	93.9	83.7
28年平均	138.7	111.5	103.2	92.9
29年平均	128.9	112.7	99.5	111.3
30年平均	133.9	112.0	87.8	85.6
31年平均	128.2	111.3	93.6	80.1
32年3月	138.5	112.7	96.6	110.4
32年6月	141.4	112.0	96.2	94.3
32年9月	141.8	117.7	103.4	98.4
33年3月	143.0	115.4	100.3	102.4
33年6月	144.3	112.8	86.1	98.7
33年9月	143.0	116.4	95.5	94.2

注 農林省統計調査部 昭和33年度最新の景気変貌と農産物市場

第3表 農業用品類別指標 (26年100)

	肥料	飼料	農機具	農薬
26年平均	100.0	100.0	100.0	100.0
27年平均	110.0	107.4	109.5	94.9
28年平均	103.1	100.7	115.3	91.1
29年平均	101.7	116.9	118.2	88.1
30年平均	100.5	115.3	119.8	83.6
31年平均	98.0	114.4	129.0	79.9
32年3月	98.0	119.2	132.9	79.0
32年6月	98.7	124.4	135.6	76.8
32年9月	98.3	122.8	136.2	77.3
33年3月	96.2	125.0	134.3	76.5
33年6月	95.2	124.1	134.3	74.1
33年9月	92.8	116.8	133.8	72.9

注 農林省統計調査部 昭和33年度最新の景気変貌と農産物市場

